

「専門」【出題意図】

本専門試験は、博士後期課程進学者として求められる「高度な専門知識」「仏教史・仏教思想に関する体系的理解」「文献に基づく分析力」「独自の問題設定能力」「学術的論述力」を総合的に確認することを目的としている。

修士課程において培われた基礎的研究能力を前提とし、博士課程において自立した研究者として研究を遂行するために必要な学術的素養および研究遂行能力が備わっているかを確認することを主眼とする。

【問題 1】出題意図

博士後期課程進学者として求められる高度な専門的素養と論述文構成力を確認するための設問である。

本設問では、特定の歴史的・思想的主題について、仏教史・思想史・制度史の観点を総合的に踏まえつつ論述することが求められる。受験者が当該分野に関する専門的知識を体系的に理解しているかを確認するとともに、文献資料(仏典・禅籍・一般文献)や具体的事例を適切に用いながら、歴史的文脈の中で対象を分析できているかを評価する。

また、単なる通史的記述にとどまらず、思想的変遷や社会的背景との関係性を踏まえた多角的理解がなされているか、さらに研究上の課題や論点を意識した記述が行われているかを重視する。加えて、問題設定と結論との整合性、論述の一貫性、専門用語の適切な運用を通して、博士課程における自立的研究遂行能力の基礎が備わっているかを確認する。

【問題 2】出題意図

仏教学研究に不可欠な基本概念・重要人物・仏典・事項に関する理解度を確認することを目的とする設問である。

提示された語句の中から二つを選択させることにより、博士課程レベルの研究を進める前提として、基礎用語を正確に理解しているかを測るとともに、それぞれの語句について、その歴史的背景、思想的意義、および仏教学上の位置づけを踏まえて説明できるかを評価する。

あわせて、限られた字数の中で要点を的確に整理し、学術的に適切な表現で簡潔に記述する能力を確認する。